

【定例会議】審議概要 (令和6年度 入札監視委員会 第一部会 第2回)

開催日及び開催場所	令和7年1月30日(木) 大手前合同庁舎 5階 共用会議室	
委員 (五十音順) (敬称略)	安部 将規 (アイマン総合法律事務所 弁護士) 泉 克幸 (関西大学 教授) 神田 彰 (公益社団法人関西経済連合会 理事) 清滝 ふみ (近畿大学 教授) 八木 知己 (京都大学大学院 教授)・(今回抽出担当)	
審議対象期間	令和6年4月1日 ~ 令和6年9月30日	
報告事項	① 半期毎の契約状況 ② 指名停止措置の運用状況 ③ 談合情報等の対応状況 ④ 再度入札における一位不動状況 ⑤ 低入札価格調査制度調査対象工事・業務の発生状況 ⑥ 一者応札の発生状況 ⑦ 不調・不落の発生状況 ⑧ 高落札率の発生状況	(備考) ・①～⑧について、 整備局資料に基づき 説明を行った。
審議事項	(備考) ・ 審議対象案件は、別紙「審議案件一覧」 のとおり	
契約方式		
(工事)		
一般競争入札方式 (WTO 対象)		
一般競争入札方式 (WTO 対象外)		
(業務)		
一般競争入札方式		
簡易公募型競争入札方式		
簡易公募型プロポーサル方式		
(役務及び物品)		
一般競争入札方式		
委員からの意見・質問 それらに対する回答等	意見・質問	回答
	1. 報告事項のとおり 2. 審議事項のとおり	1. 報告事項のとおり 2. 審議事項のとおり
委員会による意見の 具申又は勧告の内容	なし	

令和6年度 入札監視委員会 第2回定例会議 抽出工事等一覧

抽出工事対象期間：令和6年4月1日～令和6年9月30日

抽出年月日：令和6年11月13日

抽出委員：八木 知己

抽出資料：入札方式別発注工事等一覧表

抽出工事件名等

	入札方式	工事名・業務名	工事種別・業務区分・業務分類	契約金額 (千円)	備考
①	一般競争入札方式 (政府調達に関する協定適用対象工事)	国立京都国際会館展示施設増築他建築工事	建築工事	3,942,400	営繕部
②	一般競争入札方式 (政府調達に関する協定適用対象工事)	野洲栗東バイパス中地区道路改良工事	一般土木工事	1,243,000	滋賀国道事務所
③	一般競争入札方式 (政府調達に関する協定適用対象工事以外)	揖保川水系樋門等遠方監視操作制御設備新設その他工事	機械設備工事	168,300	姫路河川国道事務所
④	一般競争入札方式 (政府調達に関する協定適用対象工事以外)	西脇北バイパス下戸田高架橋(P8ーP11)鋼橋上部工事	鋼橋上部工事	548,350	兵庫国道事務所
⑤	一般競争入札方式 (政府調達に関する協定適用対象工事以外)	奈良国道事務所舗装補修工事	アスファルト舗装工事	218,207	奈良国道事務所
⑥	一般競争入札方式 (政府調達に関する協定適用対象工事以外)	足羽川ダム付替県道16号橋上部工事	プレストレスト・コンクリート工事	608,630	足羽川ダム工事事務所
⑦	一般競争入札方式	紀南河川国道事務所道路改築積算技術業務	土木関係建設コンサルタント業務	288,222	紀南河川国道事務所
⑧	簡易公募型競争入札方式	大戸川ダム管理用道路地質調査業務	地質調査業務	21,824	大戸川ダム工事事務所
⑨	簡易公募型プロポーザル方式	北部地区トンネル点検業務	土木関係建設コンサルタント業務	214,500	近畿道路メンテナンスセンター
⑩	一般競争入札方式	令和6年度～令和10年度河川情報精度監視業務	役務	4,416,500	河川部

近畿地方整備局 入札監視委員会（令和6年度第一部会第2回定例会議）審議概要

意 見・質 問	回 答
1. 報告事項 ① 半期毎の発注状況 ・ 特に問題なし ② 指名停止措置の運用状況 ・ 特に質問なし。 ③ 談合情報等の対応状況 ・ 2者の申請書の作成者名が同一人物となっていたが、2者の入札金額は異なっていたのか。 ④ 再度入札における一位不動状況 ・ 特に質問なし。 ⑤ 低入札価格調査制度調査対象工事・業務の発生状況 ・ 特に質問なし。 ⑥ 一者応札の発生状況 ・ 特に質問なし。 ⑦ 不調・不落の発生状況 ・ 特に質問なし。 ⑧ 高落札率の発生状況 ・ 特に質問なし。 ・ 報告については了承とする。 2. 審議事項 ■ 抽出案件結果報告 ■ 抽出案件説明及び審議 ● 1. 一般競争入札方式(WTO 対象) (国立京都国際会館展示施設増築他建築工事) ・ 既存部分施工業者は、今回の入札参加者の中にいるのか。	・ 競争参加資格申請確認時に疑義が判明し、2者の入札参加を認めなかったため、入札には参加していない。 ・ 入札参加者のA者である。

・ 既存部部分を施工したA者が他者より入札金額が高額で技術評価点が低い理由はあるのか。 ・ 入札参加者数3者のうち2者が予定価格超過となっており、不自然と思えるが如何か。 ・ 本件は了承とする。	・ 入札金額の高額の理由は不明だが、技術評価点が低いのは、評価に該当しない内容なため、結果的に低くなった。 ・ 入札金額は、予定価格1%を切る程度超過であったため、不自然とは考えていない。
● 2. 一般競争入札方式(WT0 対象) (野洲栗東バイパス中地区道路改良工事) ・ 本工事の両隣(東側・西側)は施工中となっているが、野洲栗東バイパスは延長が長い、本工事と同様に分割発注となっているのか。 ・ 本工事の受注者Aは、野洲栗東バイパス延長4.7km区間内で他の箇所も、受注の実績はあるのか。 ・ 予定価格超過の数が多いが、理由はあるのか。 ・ B者の評価点が高く入札金額が低額にもかかわらず、なぜ入札無効となったのか。また、調査基準価格が高すぎではないか。 ・ 本件は了承とする。	・ この中地区では盛土工事、中地区の近接では改良工事、名神ICと接続する地区では橋梁工事など、構造を分けて発注している。 ・ 受注者Aは、当該区間での他の実績は無い。 ・ 工事の積算で歩掛かりの見積書を徴収し、歩掛かり単価を公表するが、各者の積算額が結果的に官積算等より超過したと考えている。 ・ 調査基準価格より低かったため、低入札価格調査において資料を求めたが、辞退され無効となった。また、調査基準価格は、仕様内容に適合した履行がなされているか品質の確保や適切な経費が計上されているかなどを確認するための価格を設定している。
● 3. 一般競争入札方式(WT0 対象外) (揖保川水系樋門等遠方監視操作制御設備新設その他工事) ・ 入札参加者数1者だが、理由はあるのか。 ・ この工事でネットワークのようなソフト的な内容がふくまれているのか。ネットワークになると参加者は、1者になるのではないか。	・ 入札参加条件として地域条件を広く設定し、工事实績を新設だけではなく、更新や修繕など過去に携わっている者も対象としているが、入札参加業者が限られているのではと分析している。 ・ 工事の内容としては、電気通信関係あるいは機械器具関係であり操作端末と考えれば電気通信関係がメインとなる。しかし、本工事はゲートの制御設備を追加する工事であることから、樋門設備全体の構造やその挙動を熟知している者に入札

・ 遠方監視操作制御設備の設置が69箇所中、20箇所設置済み、5箇所施工中だが、受注者Aの実績はあるのか。 ・ 最初20箇所、次に5箇所、今回6箇所の発注となっているが、入札参加者数が少ないことから参加者数を増やすために箇所数を減らして発注しているのか。 ・ 入札価格が予定価格に近い金額となっているが、理由はあるのか。 ・ 本件は了承とする。 ● 4. 一般競争入札方式(WT0 対象外) (西脇北バイパス下戸田高架橋 (P8-P11) 鋼橋上部工事) ・ 施工体制確認調査とは、何か。 ・ 予定価格が高過ぎではないか。 ・ 本件は了承とする。 ● 5. 一般競争入札方式(WT0 対象外) (奈良国道事務所舗装修繕工事) ・ 3者が入札後に辞退したのは、配置予定技術者が他工事に配置され、配置技術者が不足になったことが理由か。 ・ 各者の入札金額を見ると落札率の開きがあるが、何か理由はあるのか。 ・ 本件は了承とする。	参加が必要であるため、設備工事としての発注となっている。 ・ 受注者Aは、令和3年度に20箇所設置の実績がある。 ・ 予算の制約等のある中での6箇所の発注となっている。入札参加者数を増やす取組として、ダウンロードした者にヒアリングをした結果、配置予定技術者不足による入札不参加と聞いている。引き続き発注ロットや適切な発注時期を見極めながら、競争性が確保出来るように取組を行っていく。 ・ 同じ工種で過去の落札率も平均97%であり、入札価格と官積算の価格がある程度近いと分析している。 ・ 低入札調査時に品質が確保されているかの確認で、資料を求め、評価項目に施工体制確保の確実性、品質確保の実効性についてヒアリングを行うが、資料の提出が無く辞退となった。 ・ 積算は市場調査を行い、単価設定を行っている。入札参加者も調査基準価格を狙って入札していると推測する。 ・ 貴見のとおり。 ・ 一般的な舗装工事であり、各者は過去からの落札金額を参考に積算しており、予定価格を類推しやすいと考える。また、過去の工事の落札率も概ね同じである。
---	---

● 6. 一般競争入札方式(WTO 対象外) (足羽川ダム付替県道16号橋上部工事) - 入札調書を見ると1者だけ金額が大きい、何か理由はあるのか。 - 関連する他工事はあるのか。また、関連工事と受注者Aは同じ落札者なのか。 - ダム本体工事の進捗はどうか。また、ダム本体と付替工事との関連性はあるのか。 - 本件は了承とする。 ● 7. 一般競争入札方式 (紀南河川国道事務所道路改築積算技術業務) - TECRIS実績による対象者数が1760者程度だが、入札参加者数が1者となっているが、理由があるのか。 - 落札率が100%となっているが、入札参加者数が1者のみと見越して入札をしているのか。 - 今回の受注者は、昨年度発注時も同じ受注者なのか。 - 参加資格の制約がある中、入札参加者数を増やす工夫は、難しいのか。 - 受注者のA・B設計共同体のA者は、和歌山県エリアの事業者なのか。それとも他県のエリアでも活動されている事業者なのか。 - 本件は了承とする。	- 積算において標準歩掛かり等を公表しているが、この入札金額になったことは、会社の事情ではないかと推測する。 - 別工事で橋台等を設置する橋梁の下部工があり、受注者は別の者である。 50%超の進捗率であり、令和11年度完成予定であるが、完成までに実際水を貯めて安全性を確認する試験湛水までに付替工事を完成する計画となっている。 - 参加資格の中に中立公平性に関する要件があり、本業務の履行期間中に当該事務所発注工事を受注又は下請けをしていない、若しくは当該事務所発注工事の受注又は下請けしている者と資本金・人事面で関係が無いという制約があるため、入札参加者数が少ないと考える。 - 令和元年度以降で同じような業務を発注しているが、落札率80%から100%、入札参加者数も1者若しくは2者となっている。また、この業務の積算は、歩掛かりの見積もりを徴収したうえで歩掛かりを通知し、単価も公表されているため、我々の積算額が類推しやすいと推測される。 - 昨年度2件発注しているが、1件を受注している。 - 工事本数が多くなると人員確保も難しいということで、令和3年から2事業に分けるなど業務量を減らし、入札に参加しやすくなるよう工夫している。 - A者は、近畿管内の事業者であり、他県のエリアでも受注している。
--	--

● 8. 簡易公募型競争入札方式 (大戸川ダム管理用道路他地質調査業務) - 入札参加者数10者のうち5者が調査基準価格となっているが、積算ソフト等を使用して金額が算出されるのか。 - 質問に答えたことで、予定価格の類推の精度が上がるのか。 - 各者の入札金額や評価点がどうだったか、後で分かるのか。 - 本件は了承とする。 ● 9. 簡易公募型プロポーザル方式 (北部地区トンネル点検業務) - 評価テーマに対する技術点に開きがあるが理由は何か。 - 地域の特性は、地域ごとに違うものなのか。 - 手続き開始の公示から技術提案書の提出期限までの期間が短いのではないのか。 - 本件は了承とする。 ● 10. 一般競争入札方式 (令和6年度～令和10年度河川情報精度監視業務) - 今回、Aが受注者だが、前回は受注者Aなのか。 - 受注者A以外に受注できる者はいないのか。 - 競争性が確保出来るように、工夫はしているか。	- 当該業務は全て市場単価及び標準歩掛における積算に加え、入札手続きの中で積算条件の質問があり、回答した結果、単価及び予定価格が類推されと考えられる。 - 地形など積算条件に関する質問の回答を行ったことにより、予定価格の精度がさらに高くなったと推測する。 - 各者が分かるよう、入札調書を一般公開している。 - トンネルの点検において、地形、環境などの地域特性の諸条件との整合性が高い提案か、また、着目点、問題点、解決方法など具体的な提案を求めている、各者の提案内容に差がついている。 - トンネルにおいては、地山の地質や点検で使用する技術の提案内容が異なるため点数に差がついている。 標準的な期間になっている。 - 貴見のとおり。 - 資格要件の中で、同種業務に該当するのが36者、類似業務に該当するのが182者あるので、他者も入札参加が可能と考えている。 - 発注時期の前倒し、評価テーマの緩和、入札参加等級を撤廃し全等級にするなど幅広く工夫しており、今後も工夫を続け
--	--

・ 本件は了承とする。 ・ 審議事項は全て了承し、審議については終了とする。	たい。
--	------------